

# 時間を作って技術士になろう



取得した資格：技術士（上下水道部門：下水道）  
資格取得年度：令和3年度

きた がわ けい えつ  
北川 恵悦\*

### 受験の動機・経緯

下水道事業に携わって10年となり、日常的に施設整備の設計業務を担当する機会も増えた中で、受注者へは技術士等の有資格者の配置を求めている事に対して、発注者である私自身も同等の資格が必要ではないかと思うようになりました。

そして、きっかけとなったのは平成29年度に日本下水道事業団の研修へ参加した事です。研修では2週間の共同生活を送りましたが、技術士を受験している研修生から様々な資格に挑戦している事や職場の先輩も技術士を取得している話を聞き、「仲間が頑張っているのだから私も挑戦しよう！」と決意しました。その勢いで翌年の平成30年度に1次試験を合格し、2次試験は3回目の受験でようやく合格できました。

### 筆記試験における傾向と対策

2次試験初受験の令和元年度は試験方法が変更となり、午前中は択一式試験だったものが記述式試験となりました。

建設部門に比較すると上下水道部門の参考書は少なく、勉強方法もわからなかったため、初期段階では過去問の解答例を書き写す事を行いました。次に出題傾向を分析し、予想したテーマについての想定論文を作成しました。

論文作成のポイントとしては、国土交通省の下水道に関するガイドラインなど最新の技術動向や設計指針の改定内容を参考に、各キーワードについて原理や特徴、留意点等を整理し、キーワードを盛り込んだ論文作成と見直しを合格論文だと思えるまで繰り返した事です。

このブラッシュアップは「専門外の人でも一度で理解できる」ように、「簡潔でわかりやすく」「論文全体のまとまり」に注意して行いました。具体的には、結論から述べて、理由、具体例、留意点やトレードオフの順に述べることで、自然な流れで多くのキーワードを盛り込む事ができ、試験官に伝わりやすくなるように工夫しました。

試験では、合格した年度は問題文と設問を熟読して、どのような解答が求められているか把握する事を重視しました。不合格の年度では問題文や設問の変化を無視して、用意した論文をそのまま書いた事で得点が不足したのだと考えたためです。

また、書き始める前には骨子を作成し、書くべき内容の整理やシナリオが題意に沿っているか確認を行い、大きな手戻りの防止や復元論文の資料としました。口頭試験では論文について質問される事も想定されますので、試験終了後すぐに復元論文を作成する事をオススメします。

\*弘前市 上下水道部 上水道施設課 主査

## 勉強時間の確保

私は5年で合格できたらいいと考えていましたので、勉強はモチベーションを維持するために無理しないようにしていました。

目標として、平日は朝30分、昼休み30分と帰宅後に2時間、休日は半日とし、特に昼休みだけは確実に勉強するようにしていました。

最初は効率の良い勉強方法を見つける事が出来なかったのですが、出来る事を毎日続けた事で自分なりの勉強方法を確立できたと思います。

また、論文は電子化（PDF、音声データ）し、スマホやタブレットに保存することで、いつでも勉強できる環境を整え、移動時間等のちょっとした時間も有効活用しました。

## 口頭試験における傾向と対策

口頭試験は、4月に出願した受験申込書の業務経歴や小論文から質問されます。口頭試験の合格率は約90%ですが、ここで不合格となったら筆記試験からやり直しとなるので、油断せずに対策が必要です。

確実に合格するためには出願時点でコンピテンシー（コミュニケーション、リーダーシップ、マネジメント、評価、技術者倫理、継続研鑽）を理解した上で、口頭試験を意識した小論文を作成する事が重要です。

私は模擬面接を対面で3回（青森で2回、仙台で1回）、ZOOMで1回受講しましたが、コンピテンシーを意識せず、技術的アピールに終始した小論文で出願していたため、模擬面接では厳しい指摘を受け、苦しい回答しかできませんでした。

そのため、口頭試験までの2ヶ月間は仕事以外の時間は想定問答のブラッシュアップに費やし、筆記試験の勉強より苦しい日々を過ごしました。

結局、試験当日まで悩む事になりましたが、何度も模擬面接を受講したことで本番では適度な緊張感をもって臨むことができました。

## 受験者へのアドバイス、注意点、励まし等

私は3回受験し、1回目は全然ダメで、2回目は必須科目が1点届かず不合格、3回目はオールAで合格となり、成績が毎年上がって行った事でモチベーションの維持が出来ました。この経験から、合格するためには①問題文から題意を読み取る、②簡潔でわかりやすい文章にする、③最後の行まで書ききる事、そして④合格するまで諦めない事が必要と学びました。

私自身も令和4年度は「総監部門」を受験してきました。皆様も一歩踏み出して技術士試験へ挑戦しませんか？

### 【著者紹介】 北川 恵悦（きたがわ けいえつ）

平成19年弘前市入庁（電気職）。平成19年度から平成30年度まで下水道施設課でポンプ場・終末処理場の改築事業、維持管理等を担当。現在は、上水道施設課でポンプ場・浄水場の改築事業、維持管理等を担当。

## 月刊「建設」への投稿を募集

本誌では、次のコーナーへの投稿を幅広く募集しています。皆様の投稿をお待ちしております。詳細は全建HPの「投稿のご案内」をご覧ください。

<投稿募集>

- |                 |             |        |
|-----------------|-------------|--------|
| ○後輩技術者に向けたメッセージ | ○災害発生！そのとき  | ○寄稿    |
| ○海外機関派遣者レポート    | ○学ぶ・つなぐ・広げる | ○ひろば   |
| ○技術資格試験合格体験記    | ○あーきてくと通信   | ○会員だより |

一般社団法人全日本建設技術協会 事業課 峯脇・中嶋  
TEL：03-3585-4546/E-mail：kensetsu@zenken.com

